NEWS to Spread coordinator

WOMEN'S SOCCER | NADESHIKO

女子サッカー（なでしこ）

普及コーディネーターだより

VOL.19 2020.06.08

委員長コメント

JFA 女子委員長 今井純子

緊急事態宣言が解除され、全国で、少しずつ社会で動きが出て来ました。学校も徐々にスタートしていることと思います。世界でも国内でも、スポーツ界もまた少しずつ動きが出て来ました。サッカー界でも、海外でリーグが再開され、日本でもJリーグ、なでしこリーグともに、ようやく再開日も決定し、開幕への準備が進んでいます。

一方で、第二波が心配されるところです。くれぐれもご注意いただきながら、お過ごしいただければと思います。感染予防の対策を講じながらで、緊張を強いられる状況は続きますが、慎重に、正しく恐れながら、今後の世の中、新しい生活様式に、対応していきましょう。ポジティブにとらえることのできる変化もあると思います。長期休止後の段階的なトレーニングの留意点については、JFAからも情報を発信していますので、ぜひご参照の上、くれぐれも怪我のないよう進めてください。

ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、6月5日には、新プロリーグの記者発表を行いました。全国の少女たちの憧れ、夢の存在となるように。女子サッカーが夢のあるパスウェイになりうるように。トップレベルのみならず、全国で育成・普及・指導者養成・人材育成/活用の契機となる、女子サッカーの価値向上につながる大きなプロジェクトと考えています。また随時進捗をお知らせできればと思います。

2019年度末の登録情報、例年のように、都道府県別、年代別でまとめました。全体としては、今年も数百人の漸増です。なかなか大きな増加にはつながりませんが、全体の登録人口が減少傾向にある中、徐々にでも着実に増え続けていることはポジティブにとらえています。これを土台に、これから続けて訪れる大きなイベントを契機として、大きな変化に開花させていきたいと思います。

こちらをまた皆さんと共有し、それぞれの状況に応じた丁寧な取り組みができるよう、一緒に取り組んで行きたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

普及コーディネーター取り組み事例紹介①

北海道　札幌地区

中村　麻衣さん

【各FAでの現状と課題】

札幌の現状・課題として、昨年からキッズ委員会と協力し、幼稚園・小学低学年メインでの活動など少しずつ増やせてはきていますが、女子に関わるスタッフ・協力してくれる方達の不足などにより、活動出来る範囲が狭い状態が続いています。

上記の件も含め、情報が選手へ上手く回っていない状況もあり、小学生から中学生に上がる際に辞めてしまう選手も多く、U15チームも選手がなかなか上手く分散されなかったりと、チームの存続や新規チームの活動にも影響があったりもしています。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること】

テーマ＜焦らずしっかりと＞

各種別・FA事務局と連携をとり、フェスティバルの開催や普及活動の実施。元ある活動の宣伝や女子の活動場所の情報提供。

U15チームの情報提供・U15チームスタッフ同士の交流(U12の選手とU15チームとの交流会実施)。

ノルディーア北海道との情報交換・協力。

など、いっぺんには出来ないので出来るところから少しづつ意識して取り組むようにしています。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

札幌の方でも女子に力を入れていただいており、会議の方に普及コーディネーターとして女子の活動報告をさせてもらったり、HPに女子の普及活動やフェスティバルの開催などを掲載させてもらえるようになってきています。

U12、U15の交流会などは、U15チームの指導者さんとも協力し内容から運営まで一緒に行い、今年度はこの状況で開催できるかわからないが、昨年よりも良い内容の交流会にしたいと昨年参加していただいたチームの指導者さんからも声をいただいております。

【今後の目標】

今後は、今までの活動がよりしっかりしたものにさせていきつつ、指導者や関わってくれる方達を増やしていけるように、キッズリーダーやD級の講習会を検討しながら、スクールなどとコラボ出来るような形を考えていければいいな。と思っております。

後は、周りと上手く協力しながら、みんながそれぞれやりやすい環境を目指して少しずつ整えていければと思っております。

普及コーディネーター取り組み事例紹介②

北海道　道東地区

春名　健司さん

【各FAでの現状と課題】

北海道の道東ブロックでは、大きく次の2つの課題が挙げられる。

①U-12年代とU-15年代の接続

②男子の競技人口減少により需要が高まり、女子選手が女子カテゴリーで活動することが難しい状況がある。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること】

テーマ＜繋ぐ＞

〇道東ブロック一体となってU-15年代へ繋ぐ

U-12年代において、夏季トレセン、ガールズエイト、冬季トレセン、北海道U-13女子8人制サッカーフェスティバル（4月）と、道東ブロック内4地区が連携して選手へ刺激を与え、活動を支援している。北海道U-13女子8人制フェスティバルには、参加選手数に応じて各地区が協力してチームを編成している。

〇地区を繋げてゲーム環境の向上を図る

道東4地区で例年開催するJFAレディース・ガールズサッカーフェスティバルにおいて、地区を越えて互いに参加できるよう日程調整をしている。また、既存の女子リーグを生かし，4地区のU-15女子交流戦を行うことを計画している。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

〇北海道は広域のため、5名のコーディネーターが配置されており、連携して地域FAの事業に関わっている。

・4月「北海道U-13女子8人制サッカーフェスティバル」の企画・運営

・11月「女子フットボールミーティング」の運営補助

・「JFAU-15女子サッカーリーグ北海道」アドバイザー　など

〇年度末開催の「道東圏ジョイントミーティング」において、女子サッカー普及コディネーターとして分科会・全体会議に参加している。

・北海道・道東ブロック・4地区における女子サッカーの状況の報告・要望の提案

・道東ブロックにおける女子関連事業（JFAフェス，トレセン等）のカレンダー調整　など

【今後の課題】

〇キッズからの繋がりのある女子サッカーの環境整備

キッズや4種年代に男女の区別はない。キッズカテゴリーとの連携や4種指導者と女子サッカー指導者の繋がりなどを大切にしていけるよう、働きかけていきたい。

〇多様化への対応

北海道の女子選手の状況は、地域差が大きく、多様である。女子チームや中学校の部活、男子クラブチーム、女子チームと部活の両方の場合など所属も様々で、また選手によって試合への出場機会も異なる。道東ブロック内でのゲーム環境を整えると同時に、個々の女子選手にとってできるだけ良いトレーニング環境とゲーム環境を調整してけるよう、各チームの指導者と連携を働きかけていきたい。

普及コーディネーター取り組み事例紹介③

北海道　道南地区

浅利　清美さん

【各FAでの現状と課題】

北海道の広域性については常に話題に上るところです。主要な町には、女子チームがありますが、それぞれの活動場所までの移動距離があったり、地区の高校には女子サッカー部がないなど、様々な環境の中で、サッカーをするためには周囲の理解と協力がなければ継続できない状況です。また、リーグ化に向けて取り組みが進んでいますが、一方では、リーグには出られないチームもあります。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること】

テーマ＜繋ぐ＞

周囲の人々の協力が無くしてサッカーを続けていくことはできませんので、理解して協力してくれる人とつながりを作ること。情熱を持って活動している人をサポートすることを意識して活動しています。女子のカテゴリーは幅が広く、フォーカスが難しいのですが、4種3種年代は種別と女子の両方から活動のサポートがありますが、高校の部活に所属していない子や一般の女子はサポートもほとんどされずにサッカーを続けています。今後を支えてくれる重要な人たちだと思いますので、その人たちの環境を整えることにも目を向けて活動しています。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

昨年度は、小学生から中学生になる時にサッカーから離れてしまう子を減らすために、道内の普及コーディネーターと情報共有したり、技術委員、審判委員会、女子委員会と協力し、ユースダイレクターが中心になってU13女子8人制フェスティバルを開催することができました。地区で合同したり、

初心者も参加し楽しい時間を過ごすことが出来ました。審判もユースの女子審判員に協力してもらえたので、高校生にとっても審判経験を積めただけでなく、少女たちとのつながりを持つ機会ができました。また、地方の町が主催している大会の企画、運営にも関わり、北海道だけで東北のチームとの交流ができました。

【今後の目標】

北海道でもリーグ化をしなければならなくなり、移動や経費の面から参加できないチームが多くあります。その中で、活動の重点にも挙げた、今後、女子サッカーを支えてくれる人たちが、サッカーを楽しく続けていくことができる環境を作っていきたいと考えています。

普及コーディネーター取り組み事例紹介④

北海道　道央地区　　**横澤　基さん**

【各FAでの現状と課題】

日本全体の１/5の面積を占める北海道は15の地区協会で構成され、5ブロックに分けて活動しており、各ブロックに女子サッカー普及コーディネーターが配置されています。課題としては、身近な生活圏でのサッカー環境整備と中学生年代への受け皿（チーム）不足があげられます。

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること】

テーマ＜最低中学生までは、生活圏で活動できる環境を整える。～U12年代からU15年代へ！～＞

北海道では、2017年よりサッカーファミリー拡大を目指して独自に北海道女子フットボールミーティングを開催してます。グループディスカッションから出た意見をもとに、昨年度第1回U-13北海道女子8人制サッカーフェスティバルを開催いたしました。課題解決に向けて、女子ユースダイレクターを中心に、普及コーディネーターが普及施策を立案し、各地区やチームと連携協力しながら運営いたしました。道央ブロック（小樽、北空知、千歳、空知）では、JFA北海道キヤノンガールズ・エイト大会（道央GREEN)を大きな目標として、U-12年代のトレセン活動を推進しています。毎月のトレセンマッチデーを活用し、技術委員と4種委員が協働して運営しております。そして空知地区(4市5町）では、女子選手が「集まる場づくり」を積極的に推進してます。既存ガールズサッカースクールの定期開催、U-12年代対象の普及育成活動を地区4種の協力を受けながら行っております。今後も地区のガールズフェスティバル、なでしこひろば等をとおして、女子選手が「集まる場づくり」の拡充を積極的に行っていきます。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

今春4月に発足した空知地区の女子チーム岩見沢FCルファヴェニールを中心に報告します。地区のU-12・4種女子の（2009年度より月2回程度活動、チーム名:空知FCガールズ）活動が年々活発化し、近年では道協会主催大会等で好成績を収めることが多くなりました。しかし、卒業後の進路は札幌近郊のクラブチームや通学先の他部活を選択するケースが多く地区に選手が残らないことが長年の課題でした。しかし、昨年度多くの6年生が在籍したことを契機に、地区内で女子チーム（U-15)を設立する機運が高まりました。そこで主要スタッフ中心に準備委員会を発足、地区協会会長をはじめ各役員、関係指導者、北海道教育大学岩見沢校（人工芝G）、地区3種や4種のチームスタッフなど様々な方々のご理解とご協力をいただき、ともに準備を進めてきました。さらに、運営母体の岩見沢FCから、女子選手や指導スタッフ、練習会場の提供等の協力を受け、まさにオール空知（岩見沢）で女子サッカーのメッカを目指した取り組みが展開されています。

【今後の目標】

現在はまず、コロナ渦による未曾有の事態が収束し、その後訪れるであろう「新しい生活様式」に対応した環境を整えることが第一優先であると考えます。その上で、空知地区では発足した新チームをいち早く軌道に乗せ、2021年度にはJFA U-15女子サッカーリーグ北海道に参入することが今後の大きな目標であります。道央ブロックにおいては、各地区それぞれに女子チーム創出の機運を図り、今後5か年計画で道央ブロックU-15、U-18、トップチームでの各リーグ戦化を促進していきます。なでしこリーグ等に参入するチームを待望しつつ、関係機関と連携協力を図り各地区女子委員会の活動をバックアップしていきます。また、身近な生活圏でのサッカー環境整備をはじめ、各カテゴリの試合環境充実、なでしこひろばの拡充等を通して、北海道・道央よりなでしこvision実現に向けての取り組みを行っていきます。

普及コーディネーター取り組み事例紹介⑤

北海道　道北地区

鈴木　康宏さん

【各FAでの現状と課題】

15地区協会で構成されている北海は5ブロックに分かれており、各ブロックに普及コーディネーターが配置されています。そのうちの私が担当する道北ブロックは、南は占冠村から北は稚内までの約340kmをカバーして活動に取り組んでいる。（資料1参照）

最大の課題は、「この広さでこれだけの選手？」と思われるぐらいの女子選手の少なさである。（資料2参照）

＜資料1＞北海道・道北地区

1. 旭川地区サッカー協会（旭川市、富良野市を含む上川支庁南部・留萌支庁南部）
2. 道北地区サッカー協会（士別市、名寄市を含む上川支庁北部・留萌支庁北部）
3. 宗谷地区サッカー協会（利尻島、礼文島を含む宗谷支庁全域）

以上、道北地区は3つのサッカー協会で構成されている。

＜資料2＞道北ブロック女子選手数

【U-12】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
旭川地区サッカー協会	6	8	10	18	24	24	90
道北地区サッカー協会	0	0	0	0	0	2	2
宗谷地区サッカー協会	0	1	2	3	2	3	11
	6	9	12	21	26	29	103

【U-15】

	中1	中2	中3	合計
旭川地区サッカー協会	13	21	13	47
道北地区サッカー協会	1	0	0	1
宗谷地区サッカー協会	6	6	0	12
	20	27	13	60

【U-18】

	高1	高2	高3	合計
旭川実業高校	9	6	7	22
旭川南高校	13	5	8	26
稚内高校	0	1	7	8
	22	12	22	56

【普及コーディネーターの活動として特に重点的に取り組んでいること】

テーマ＜～日本最北の地に女子サッカーの華を！U-12からU-15へ、そしてU-18の華へ～＞

普及コーディネーターとして、北海道女子フットボールミーティングの開催、中1になるときのサッカー離れを危惧して始めた北海道U-13女子8人制サッカーフェスティバルの開催などに関わってきました。担当の道北ブロックでは、キャノンガールズ・エイト大会へ向けて道北トレセンU-12を立ち上げ、また、U-13女子8人制に向けて道北トレセンU-13を立ち上げ、それぞれ全道大会へ出場しています。ただし、距離的な問題もあり、大会前に一度だけ顔合わせ程度に集まるのがやっとで、この1回をブロックトレセンの活動としています。旭川地区では、小・中・高の女子選手及び興味のある女子たちが集まれる「サッカー広場」を開催している。4月～10月まで毎週木曜日17:00～小学生・19:00～中、高校生（市の人工芝G）、11月～3月まで毎週日曜日13:00～小学生・15:00～中、高校生（小学校の体育館）に集まり活動しています。また、月１程度で小学生女子を集めて、フットサルの「華リーグ」も開催しています。小・中・高が同じ日、同じ場所で活動することによって、下の子は中学、高校でもサッカーができることを知り、上の子は下の子の面倒を見て基本を振り返る。今のところ「サッカー広場」を充実させながら、普及育成に力を注いでいる。

【FA、自治体、クラブ等との関わり】

旭川地区の週1の「サッカー広場」では、東光スポーツ公園人工芝（ナイター）を使用している。ボールコントロールのし易さ、ケガの防止などを考えると、女子にとっては施設に恵まれていると思います。また、旭川実業高校人工芝Gの「サッカー広場」での使用や旭川南高校女子サッカー部主催のガールズフェスティバル（3回）への協力など、施設環境の充実とともに2種との普及育成に関しての連携協力が図られてきました。さらに、2年前に設立した旭川唯一の女子U-15クラブチーム「ベリンダ旭川」とは連携協力を図り、指導者及び選手のトレセン活動への積極的参加、トレセンチームとの合同での遠征などに取り組んでいます。

【今後の目標】

まれに見る雪の少なさ、そして、雪解けの速さなど、「今シーズンの始まりは，北海道ではあり得ない3月下旬のスタートか！」と、喜んでいました。ところがどうでしょう。コロナの影響で、早くできるどころか、サッカーのできる日がもう3ヶ月も削られてしまいました。北海道にとっては本当に酷です。しかし、やっとサッカーのできる日がやってきそうですが、コロナ収束後に待っている「荒たな日常」に向けて、サッカーもそれに合わせてスタートすることになります。まずは、道北ブロック内の各地区の女子選手数や選手の状態、チームの活動状況などの情報収集から始めて、ブロック内の実態把握に取り組んでいきます。できれば、その後、何か所かで巡回の「なでしこひろば」を開催させてもらい、その中で女子の指導者を増やしていこうと思っています。また、高校の女子選手を対象にキッズリーダーやユース審判の養成に取り組むなど、2種との連携をさらに深めていこうと思っています。まずは極寒の北の大地に種をまき、途中でしおれることなく、確実に花を咲かせる。そんな地道な活動を続けていきたいと考えています。

高校女子サッカーから地域の普及

1　作陽高校とソルフィオーレＦＣの現状

・ソルフィオーレの立ち上げの理由

　ソルフィオーレを立ち上げた理由は大きく2つあります。1つ目は、小学生の時には本気でサッカーに取り組んだ女の子たちが中学生になると活動の場がなくなり辞めてしまうという問題を解決したいと考えたからです。岡山県内の中学生でも男子のクラブチームや中体連サッカー部に所属している女子選手が多くいます。彼女たちは、男子との体力・体格差などの根本的な問題に悩みながらプレーをしています。「同年代の女子選手と練習や試合がしたい」という要望にこたえるためにチームを立ち上げました。

　2つ目は、個の育成を強化したいということです。作陽高校女子サッカー部には岡山県出身の選手が中心選手として活躍しています。将来輝く女子選手を育てていくために中学生年代と高校生年代の一貫した指導と試合への出場機会が必要だと感じていました。作陽高校内にU-18チームを作ることで作陽現役部員に2つのチームの活躍の場を作ることができると考えました。作陽高校は約50名の選手が所属しています。作陽高校としての公式戦活動だけでは、出場できない選手が出てきています。育成年代の選手には試合に出場して結果を出すという事が一番大切だと思います。ソルフィオーレU-18の公式戦に当然U-15の選手も出場しています。ここで成長した選手たちが年代別代表や日本代表に選ばれ、世界に羽ばたいていく選手になってほしいと考えています。年代を超えて、一貫して成長できる場を提供する必要性を強く感じています。

2　指導者の役割分担

・女子選手の特性を踏まえた上での指導方法の確立

　女子選手の特性としては「みんなで頑張りたい」という協調性の強さだと思います。チームで決めた目標に団結して本気で取り組むことができます。そのためにチームの総合力で、大きな大会になればなるほど勝ち上がることができるように思います。

　一方で時にこのことが裏目にでて、一人で行動することを恐れるという欠点になることもあります。自分自身に自信がないことが理由の場合もありますが、誰かと一緒でないと行動ができない選手が多いように感じます。これでは集団の中で自分の力を発揮することができません。私は監督として一人ひとりと面談をすることを重要視しています。面談では、各選手の得意なことやチームへのいろいろな貢献を伝えています。それを継続して注視しながら度々伝えるようにしています。自分自身の存在価値に気づかせ、自分の頑張りを自覚させることで、自分の進むべき道をはっきりさせ、自分の足でしっかりと歩けるように促しています。この面談は、「自分を見て欲しい」という選手の欲求に対しても大きな効果があります。時間はかかりますが、やはり1人ひとりを観て伝える時間を大切にしています。

・女性指導者の育成

　女子選手に対して女性指導者はとても大切な存在です。女子の心身の成長について、男性にはわかり難いことが多々あると思います。男性指導者でもトレーナーや養護教諭など選手の相談窓口がきちんと整理されていれば全く問題ないと考えます。しかし、1人でも多くの女性指導者が増えていくことは女子選手たちにとって安心できる環境作りになっていくことと思います。作陽高校・ソルフィオーレFCには5名の女性指導者が役割分担をして指導にあたっています。選手たちを楽しませながら育てるためには、指導者自身が楽しまなければいけないと考えています。通常の練習では、メインで指示を出すのは監督ですが、細かな指導はスタッフに任せています。また各スタッフに中心的に指導をしてもらう機会

を作り、指導力向上も狙っています。選手たちは様々な指導者から指導を受けることで成長の幅が広がります。5名のスタッフは、定期的にスタッフミーティングを行い選手情報と指導方針の共有をしています。良い情報だけではなく悪い情報も全員で共有することを大切にしています。主役である選手たちを全力でサポートするためには今何が必要か、指導者の役割を明確にし、指導者1人ひとりの存在を尊重しつつ、チームを全員で育てていると感じてもらえるよう運営をしています。

3　保育園への巡回指導　なでしこひろばの活用へ

・女子サッカーのすそ野拡大

　作陽高校は、多くの子どもたちのサッカーを楽しむきっかけ作りをするために、昨年からソルフィオーレスタッフが保育園への巡回指導となでしこひろばを開催しています。徐々に園児や保護者も楽しみにしてくれるようになり、月に2回以上実施しています。できるだけ多くの作陽現役女子部員にも指導者として参加してもらい、いろいろな角度から子どもたちを見てもらっています。指導にあたる高校生たちには自分自身がサッカーを始めた頃のことを思い出し、純粋にボールを蹴れる楽しさを感じてほしいと思っています。この取り組みで、園児たちが楽しさを感じ「また、サッカーがやりたい」と思ってくれれば、サッカーを生涯続けてくれるのではないかと思います。人見知りでなかなかお友達と交流ができない園児が何回か参加してくれるうちに笑顔が増え、元気いっぱいにグラウンドを走り、ボールを蹴っている姿を見ると大きな喜びを感じます。今後さらに様々な場所に出向き多くの人と交流し、サッカーで笑顔の輪を広げていきたいと思っています。

FIFA女子ワールドカップ2023開催国、6月25日に決定

国際サッカー連盟（FIFA）は15日(金)、FIFA女子ワールドカップ2023の開催国を6月25日(木)に行われるFIFAカウンシルで決定すると発表しました。

FIFA女子ワールドカップ2023の招致活動には現在、日本のほか、オーストラリア／ニュージーランド（共催）、ブラジル、コロンビアが参加しています。6月上旬には、FIFAが各招致から提出された招致ブック（開催提案書）や視察をもとに評価レポートを公表します。開催国は、FIFAカウンシルメンバーによる投票で決定します。

【女子ワールドカップ2023招致ロゴ】

BIDDING NATION
JAPAN

日本初の女子プロサッカーリーグが2021年秋開幕

名称は 『WEリーグ』 に決定！

日本サッカー協会（JFA）は本日（6月3日）、オンライン記者発表会を開催し、2021年秋に開幕する日本初の女子プロサッカーリーグの名称とロゴ、リーグの理念、ビジョン、大会方式を発表しました。新リーグの名称は、「WEリーグ（Women Empowerment League）」。「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」ことを理念としており、この名称にはWEリーグの誕生によってこれまでなかった“女子プロサッカー選手”という職業が確立され、リーグを核に関わるわたしたちみんな（WE）が主人公として活躍する社会を目指す、という思いが込められています。

WEリーグは、これまで30年以上にわたって日本の女子サッカーをけん引してきた日本女子サッカーリーグ（なでしこリーグ）の上位に位置する、日本女子サッカー最高峰のリーグで、参加クラブは6～10チームを予定しており、今年秋に発表する予定です。リーグは2021年秋に開幕し、ホーム＆アウェイ方式による総当りリーグ戦で順位を決定します。

WEリーグは、クラブ、選手、ファンサポーター、パートナーらとみんな（WE）で創り上げていくリーグを目指していきます。

WEリーグのロゴ、概要、また、JFAの田嶋幸三会長をはじめとする関係者のコメントは以下の通りです。

記

【日本女子プロサッカーリーグ概要】

名称：　WEリーグ［うぃーりーぐ］（Women Empowerment League）

ロゴ：

※ロゴデータ（PDF）はJFAメディアチャンネルからDLいただけます

理念：　女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する。

ビジョン：
1. 世界一の女子サッカーを。
2. 世界一アクティブな女性コミュニティへ。
3. 世界一のリーグ価値を。

期間：　2021年秋開幕（シーズンは翌年5月ごろ終了）予定

チーム数：　6～10チーム（予定）※当面、降格は実施しない（昇格のみ）

フォーマット：ホーム＆アウェイ方式による総当たりリーグ戦

SNS：　WEリーグ公式Twitterアカウント「@WE_League_JP」

【会見登壇者コメント】

■公益財団法人日本サッカー協会 会長　田嶋 幸三

2021年秋に開幕する日本初の女子プロサッカーリーグは、日本の女子サッカーを発展させることだけが目的ではありません。女子プロリーグを核にして様々な雇用を生み出したり、人々の生き方の選択肢を広げたりすることによって、更なる女性の社会進出や持続可能な社会の実現に貢献していくことも目指しています。スポーツを通して社会に貢献していくことは、スポーツ界にとって重要な使命です。少女たちの夢となる女子プロサッカー選手という職業を確立していく同時に、女性活躍社会の推進や社会が抱える課題解決にも取り組んでまいります。

■公益財団法人日本サッカー協会 理事／女子新リーグ設立準備室長　佐々木 則夫

WEリーグの誕生によって、女子プロサッカー選手という職業が確立され、少女たちの夢の受け皿となります。そこを核にさまざまな雇用が生まれ、人々の生き方の選択肢を広げる。多様な考えや目標、生き方があることを知り、認め合い、そして自らの信念や可能性を解き放つことのできるステージへと進んでいくことができる。リーグに関わる全ての人が手を取り合い、リーグから生まれる「わたしたち」のポジティブなエネルギーが社会全体に波及していく。私たちは、それを体現するリーグでありたいと思っています。

■公益財団法人日本サッカー協会 女子委員長　今井 純子

WEリーグの設立によって、トレーニング環境やゲームレベルのスタンダードは間違いなく向上します。選手たちにはその中で、パフォーマンスを高め、自身の選手としての価値向上にも目を向けて活躍してほしいと思っています。しかし、WEリーグ設立はプロ選手だけのためではなく、グラスルーツからシニアに至るまでのすべての日本女子サッカーの発展の契機となると同時に、世界の女子サッカー発展の一翼を担うものでもあると信じています。WEリーグのビジョンを実現させ、全ての女の子がプロサッカー選手に憧れ、WEリーグを目指す、そんな世界を作っていきます。

■なでしこジャパン（日本女子代表）監督　高倉 麻子

女子サッカー選手の長年の夢だった女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」がいよいよ誕生します。このリーグが成功するためには選手の覚悟が必要です。その覚悟が日本を必ず強くするはずです。WEリーグが、応援して下さる方々が楽しめる場所、女の子たちの夢の舞台になることを期待しています。WEリーグをみんなで盛り上げていきましょう。

新型コロナウイルス関連のお知らせ

◎JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン

（47 都道府県サッカー協会/9 地域サッカー協会向け）

2020年の年初より感染が拡大した新型コロナウイルスの影響により、社会・経済活動が停滞する中、事業者及び関係団体は、今後の持続的な対策を見据え、政府の方針等に基づいて、業種や施設の種別ごとにガイドラインを作成するなど、自主的な感染防止のための取り組みを進めることが求められており、日本スポーツ協会や日本オリンピック委員会等においても、各種統括団体向けのガイドラインが策定・公表されているところです。

「JFA サッカー活動の再開に向けたガイドライン」（以下、「本ガイドライン」）は、こうした政府の方針や上位団体のガイドラインに基づき策定したものであり、各種の事業を再開するに当たっての道筋や基準を整理し、また、事業再開時及び再開後における感染拡大予防のための留意点を「手引き・チェックリスト」としてまとめたものです。

▸詳しくはこちらへ　http://www.jfa.jp/about_jfa/guideline.html

◎育成年代女子選手向け：サッカー活動再開に向けた留意点

JFAフィジカルフィットネスプロジェクトでは、2種（U-18）、3種（U-15）年代女子選手の発育の特徴とトレーニングにおける留意点、また、特徴的なケガとその予防についてまとめました。5月22日に発表しました「サッカー活動再開に向けたフィジカルガイドライン（育成年代向け）」とあわせてご活用ください。

▸詳しくはこちらへ　https://youtu.be/uzOz1CcAEic

▸フィジカルガイドライン　https://www.jfa.jp/coach/news/00024931/

◎サッカーファミリーの心と体の健康のために　JFAフィジカルフィットネスプロジェクトより指導者、保護者の皆さまへ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにサッカー活動を自粛している選手や子どもたち。実は、思った以上に体力が低下しています。しかも、大好きなサッカーができない中で精神的にストレスを抱えている子どもも多くいるはずです。

自粛期間中は、普段できなかったことに取り組むチャンスでもあります。指導者の皆さま、保護者の皆さまは、ぜひ子どもたちの身体と心を健全に保つためのサポートをしてあげてください。
そして、活動自粛期間が明けたとき、みんなとボールを蹴られる喜びを存分に味わわせてあげましょう。

ただし、その場合は注意が必要です。体力や筋力が低下した状態で急に激しい運動をするとけがのリスクが高まります。正しい理解の下で、時間をかけて子どもたちに必要な体力を戻していただくことが大切です。

本資料はそのために参考にしていただきたいと考え、作成したものです。ぜひ、ご活用ください。

▸指導者の皆さまへ　詳しくはこちらへ　https://youtu.be/PRNcivTytfM

▸保護者の皆さまへ　詳しくはこちらへ　https://youtu.be/-klBAgNxcP8

国内競技会の中止／延期について

コロナウィルスの影響により、下記の国内競技会が中止及び延期の対応となりました。

＜中止＞

■令和2年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技（女子）
8月21日（金）～8月25日（火）
決勝：8月25日（火）@群馬県立敷島公園サッカー・ラグビー場（群馬県/前橋市）

■JFA U-18女子サッカーファイナルズ2020
2020年9月19日（土）、21日（月・祝）
決勝：2020年9月21日（月・祝）@サンガスタジアム by KYOCERA（京都府/亀岡市）

＜延期＞

■XF CUP第2回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）
7月27日（月）～8月3日（月）
決勝：8月3日（月）@コーエィ前橋フットボールセンター（群馬県/前橋市）
※延期後の詳細につきましては引き続き検討中です。

なでしこひろば

なでしこひろばデータをまとめてみました

全国都道府県別認定団体数及び2020年5月開催申請数

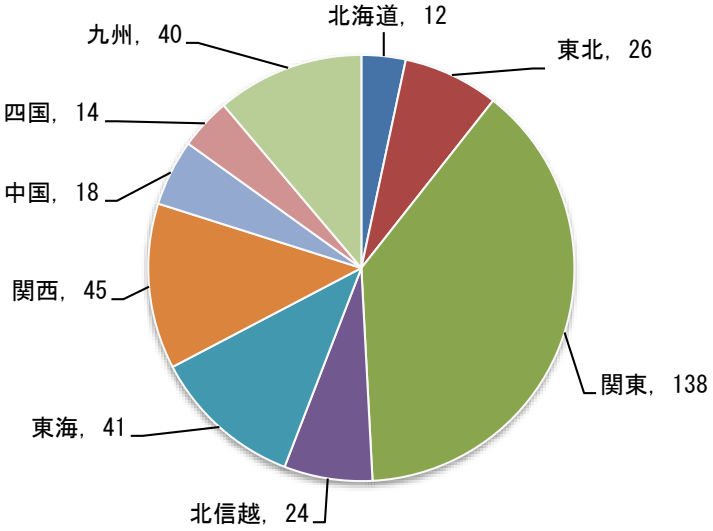
	都道府県	団体数	開催申請数			都道府県	団体数	開催申請数
1	北海道	12	1		25	滋賀県	5	
2	青森県	5			26	京都府	8	
3	岩手県	5			27	大阪府	16	
4	宮城県	9			28	兵庫県	10	
5	秋田県	3			29	奈良県	3	
6	山形県	2			30	和歌山県	3	2
7	福島県	2			31	鳥取県	1	
8	茨城県	8			32	島根県	1	
9	栃木県	11			33	岡山県	6	
10	群馬県	4			34	広島県	8	
11	埼玉県	28			35	山口県	2	
12	千葉県	10	1		36	香川県	6	
13	東京都	51			37	徳島県	3	
14	神奈川県	21			38	愛媛県	3	
15	山梨県	5			39	高知県	2	
16	長野県	7			40	福岡県	12	
17	新潟県	5			41	佐賀県	4	
18	富山県	3			42	長崎県	6	
19	石川県	4			43	熊本県	3	
20	福井県	5			44	大分県	5	
21	静岡県	11			45	宮崎県	2	
22	愛知県	17			46	鹿児島県	2	
23	三重県	9			47	沖縄県	6	
24	岐阜県	4				合計	358	4

【2020年5月データ】
・全国登録団体数　：358団体
・新規登録団体数　：　2団体
・認定団体数の全国トップ3
　1）東京都　（51団体）
　2）埼玉県　（28団体）
　3）神奈川県（21団体）
・全国開催申請数　：　4開催
（4月開催申請数は16開催、12開催減）

※新型コロナウイルス感染症拡大に伴い5月はステイホーム週間で、より一層の外出自粛が求められたため、なでしこひろばの開催申請数も非常に少なかったです。緊急事態宣言は解除されましたが、今後も様子を見つつ、ご無理のない範囲で、開催のご検討をしていただければと思います。開催していただけた際には、こちらのページでもお取り組みをご紹介させていただければと思いますので、メール等でご報告いただけますと幸いです。
皆様、引き続き、お気をつけてお過ごしください！

地域別認定団体数

北海道	12カ所
東北	26カ所
関東	138カ所
北信越	24カ所
東海	41カ所
関西	45カ所
中国	18カ所
四国	14カ所
九州	40カ所
【合計】	358カ所



http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/

※次回は2020年7月8日（水）配信予定です。お楽しみに！